

挑む!

経営者

田中 大貴さん(32)

日本茶のワツカ 世界に熱気を

800年以上続く宇治茶の産地として知られる京都府和東町。山肌に茶畑が広がる集落で、カフェを併設した会社「D・m・a・t・c・h・a」を営む。その名に込めた通り、日本茶の茶葉を自ら栽培して緑茶のほか菓子などに加工

し、国内外で販売する。訪日外国人客を茶畑に案内し、茶摘みを体験してもらった。5月には、フィリピンで初の海外店をオープンさせる。米コ

転機が訪れたのは2015年。米コ



東京都出身。京都大農学部で農業組織経営学を学ぶ。卒業後、米コンサルティング企業の日本法人に入社。外資系ドーナツ店の再建に携わった。

ンサルティング企業の日本法人を退社し、経営学を学ぼうと米マサチューセッツ州の大学に留学。健康志向の高まりから、現地では日本茶ブームが起きていた。しかし、スーパーで茶を買って袋を開けてみると、劣化して黄色くなっていた。味もひどい。「これが日本茶だと思われたくない。日本の『農』で世界と勝負したい」。かつて農学部で在籍したことも縁だと感じ、一念発起した。茶の産地をめぐり歩いた末、和東町へ妻と移り住んだ。

農家同士が茶の品質を高め合う土壤に魅力を感じる一方で、担い手不足で耕作放棄地も目につくようになった。「フランスのワインと言えば『ボルドー』と生産地名で呼ばれるように、将来的には日本茶の『ワツカ』を世界ブランドに育てたい」

文・写真 伊藤弘毅

記者から

地域の魅力を磨き、世界と勝負する。同い年の経営者のそんな挑戦を応援したい。